



2000年7月20日

発行/(社)三原青年会議所
編集/広報委員会
三原市皆実4丁目8番1号
(三原商工会議所内)
TEL(0848)63-3515
FAX(0848)62-1141
インターネットアドレス
<http://www.tako.ne.jp/~mjc/>
Eメールアドレスmjc@tako.ne.jp

2000年三原JCスローガン



Keep it straight

—未来へ向かってゆっくと歩き出そう—

今月号の記事

- 1面 コラボロード～一般公募委員インタビュー～
- 2面 「ヤッ君&モッ君ももやま談義」
- 3面 6月例会「それゆけ!小早川市」/地域のソフトボール監督インタビュー/未来クル通信
- 4面 新入会員紹介/めざせ広域交流!/やっさもっさ/ちょっと一言

みたか
きいたか

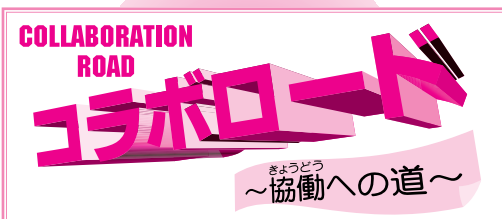


先月の衆議院議員選挙結果については報道されたとおりであり、それぞれの思いがあるであろう。一方、投票率は三原市の場合66.62%、地方分権・地域主権の時代と言われながら、この数字はどうだろうか。私は市民参加のまちづくりには程遠い数字に思えてならない。最近、「協働のまちづくり」、「市民参加」という耳障りのいい言葉が日常的に使われるようになってきたが現実はどうだろうか。まちの政策・立案は、審議会・検討会議等、いつもの決まった委員と数名の市民代表といわれる人で構成され、これで市民の声が一応、行政・議会に届くというシステムが通例となっている。しかしこれでは、行政のシナリオに沿ったストーリーに市民が参加させてもらっているという茶番劇にすぎないのではないだろうか。市民が動かなければ市民参加などありえないし、何も変わらない。選挙の投票しかり、行かなければ何も変わらない。ましてや投票にすら行ってない者が不平・不満を言う資格などないはずだ。私たち市民は自己の責任と義務というものを今一度よく考える時期にさしかかっているのだ。市民が変われば行政が変わる。行政が変わればまちが変わる。市民と行政が、しっかりとスクラムを組んで21世紀に向け、すばらしい住みよいまちにしたいものだ。



伊達副理事長

◀勝原奎介さん 島村けい子さん▶



三原市基本構想策定審議会

一般公募委員 にインタビュー

本紙「やっさもっさ」でもたびたび報告してまいりましたが、今後10年間の三原市の将来像を決める「第4次三原市長期総合計画」がいよいよ大詰めに近いようです。全体で4回開催される予定の審議会のうちすでに3回が終了し、さらに年内にはその会議を終了、計画の全容が明らかになる予定です。そこで、この審議会に一般公募で参加されている勝原奎介さん(会社員)・島村けい子さん(主婦)の両名をお招きして、(社)三原青年会議所伊達副理事長が審議会を通しての率直なご感想や、ご意見をお伺いし、私たち三原市民が今、何を成すべきなのかを考えてみました。

福祉健康都市は市民の総意?

伊達 今回で3回目の審議会となりましたが、今までの感想を含めてお話を伺いたいと思います。前回の審議会では、アンケート結果について検討され、いよいよ私たち市民が望んでいる三原の将来像について内容が煮詰まってきたと思いますがいかがでしょうか。

勝原 内容的には今まで通りであり、行政はハードを重んじたものが多かった感じました。

島村 計画のベースが10万人で考えられていたのですが、三原市の人口は減っている傾向にあり、もう少し現実を見た計画をすればいいのではないかと思います。その辺りに委員と行政との食い違いを感じましたね。

勝原 私自身は10万都市がベースでも良いと思います。それよりも、それに合わせて箱物ばかり計画するのではなく、どうすれば快適に暮らしてゆけるのかというソフトの部分を計画してほしいという意見が委員の方から出たのが印象的でした。また、ソフトの伴わないハードではいけないのではという意見も出ていました。アンケートの中で一番多かったのは、福祉健康都市でしたよね。アンケート結果の年齢別を見ると、50代・60代の回答が多く当然の結果となったように思います。相対的に若い人の関心がなかったように思います。

伊達 先日、第3次の計画を見ていたら、「こんなまちにしたい」とか「経済的にこうしたい」ばかりで、もっと市民生活に密着した商業の活性化

に繋がる計画があればと感じましたがお二人はいかがでしょうか。

勝原 長期総合計画には、基本理念を基にリーディング構想がありさらに施策大綱が5つあります。その5つは生活のまち・産業のまち・教育のまち・福祉のまち・交流のまちという分け方をしてあり、その産業のまちの中に、農林水産・商業サービス・工業中小企業労働環境・観光レジャー等が入っています。

島村 その中で農業に関して農協の方が言われていたのは、基盤整備に関してはもう終わっており、次の世代を考えた人材等、ソフトな部分について考えてほしいという事でした。最近サラリーマンから農業に転職を希望される方もずいぶんおられると聞きますので、人材育成などに焦点を向けてゆけばと思います。

伊達 そういう面で言うと、商業に関しては二代目が他県他市へ就職し、帰ってこない傾向にありますよね。「規制緩和」で何でもできる時代になったとはいえ、「二代目もいないのに、そこまで気力もないし」というのと似たようなことですかね。

島村 ふるさと三原に対して惹きつけるものがあれば若者は帰って来ると言います。そういう意味でもまず魅力あるまちにする事が一番ではないでしょうか。

伊達 先月、瀬戸田の町長さんとお話する機会がありましたが、その中で観光を柱として自分達で生きてゆこうという、明確なビジョンを町民と一体となって持っていらしたのを思い出します。

島村 そうですね。何よりも行政と住

民が連携し合ってまちを創ってゆくというのが一番大事だと思います。

キラリと光るみはらにしたいですね

伊達 今回の出席者の中で、何か興味深いことを言われた方はいらっしゃいましたか。

勝原 一番印象に残ったのは、三原商工会議所の勝村会頭の言葉でした。内容は「私は休みの日に時間があれば色々な町を歩いてるよ。山口県の柳井の白壁にしても、評判なまちは小さい町だって何かキラリと光るものがある。」という話をされました。その話を聞いて三原市の事を考えてみたのですが、キラリと光るものがないですよ。こういう事を計画に具体的に挙げていただきたいですね。

伊達 お話をお聞きする限り、今回の計画は第3次三原市長期総合計画を踏まえてという感じがしますが、新たにという感じではないのでしょうか。

勝原 前回の焼き直し? なにかそんな感じがしますね。委員の皆さんもそう言うっておられました。字句を変えたり、「前回のこの部分はここへ含めました。」とか「言葉を変えました。」という説明でしたので、あまり変わっている気はしませんでした。机上の言葉の組替えでは駄目ですよ。

発言する機会がありました...

伊達 最終回となる次回の審議会が一ヶ月後に開催予定という事で、具体的な草案が出てくるとは思いますが、過去

本紙『やっさもっさ』は、1月から11月まで毎月1回発行し、新聞折り込みを中心に配布しております。何卒ご愛読ください。
やっさもっさは資源保護のため再生紙を利用しています。

